



菅波 茂

「AMDA+地方自治体NGO
十ゼネコンNGO三位一体説」ほ
ど期待されているものはない。そ
の実態は何か。「医療+水+土木
の緊急救援チーム」である。昨年
世界中が注視したアフリカのルワ
ンダ難民の悲劇に対する問題解決
の二方法である。ルワンダの隣国
ザイルのゴマに逃れたルワンダ
難民にコレラが大流行して多数の
死者を出した。原因はコレラ菌に
汚染された飲み水だった。大地が
固い岩盤のためトイレがつくれ
ず、糞尿が飲料水となるキブ湖に
そのまま流れ込んだためだった。
日本の自衛隊が評価されたのは重
機を駆使しての岩盤を掘ってのト

イレ造りおよび米軍からひきつい
だキブ湖からの清潔な水の供給だ
った。

昨今の国際情勢は乱世に突入し
ている。混乱状況が多方面で出現
している。人道援助を必要として

三位一体説

いる内戦による難民や
自然災害被災民救援活
動も複雑化している。

従来のNGO活動だけ
では限界がみえてき
た。多くのNGOは対
人サービスを得意とす
る。保健や医療、水や
食料配布、教育などの
分野である。生活関連

環境整備を得意とするNGOはま
れである。しかし、現場で必要と
されている多くの活動は対人サー
ビス+生活関連環境改善である。

新しい発想が求められている。

生活関連環境改善活動はプロの世

界である。水のプロはだれか。土
木のプロはだれか。地方自治体で
あり企業である。特別ボランティア
ア休暇制度を推進しよう。そして
自治体NGOと企業NGOを創設
しよう。従来のNGOは得意とす
る対人サービスに加えてコーディ
ネーターの役割を果たすことにな
る。

日本は人道援助活動支援のため
国連機関に多額の金額を拠出して
いる。しかし、欧米の対人サービ
スNGOが国連機関と二人三脚で
その拠出金を使って評価を得てい
る。納税者として納得できない。
耐えられない。では日本としてど
うすべきか。日本の人と技術を含
めた社会資源の活用しかない。そ
れは「医療+水+土木の緊急救援
チーム」の創設と運用である。

(アジア医師連絡協議会代表・

題字は筆者)